

明治中頃の日高平野

山河依然 (嶋田海南画)



表題「山河依然」 嶋田海南



1. 野口山・千曳山および野口・小森方面



2. 筏流しと若野・和佐・左は小熊



3. 小熊・土生・鐘巻道成寺および藤井渡し・八幡山・藤田村・丸山・湯川村方面 ①



4. 岩内の渡しと八幡山・亀山・入山(藤井・出島・財部・小松原・入山・嶋) ②



5. 御坊村嶋・藺・西川川口(帆船が見える)・濱ノ瀬戎神社



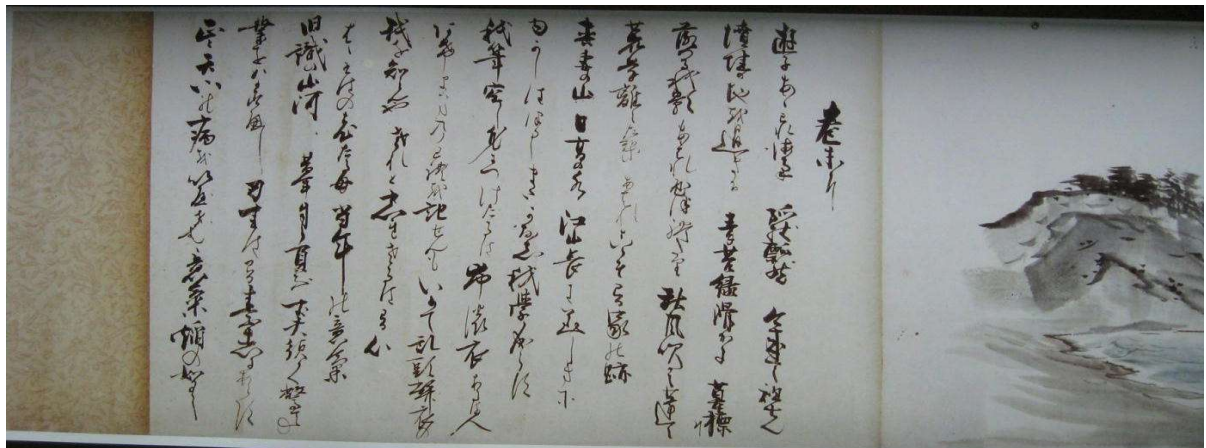
6. 松原と日ノ御崎方面(地曳網や帆掛け船・汽船の煙が見える)



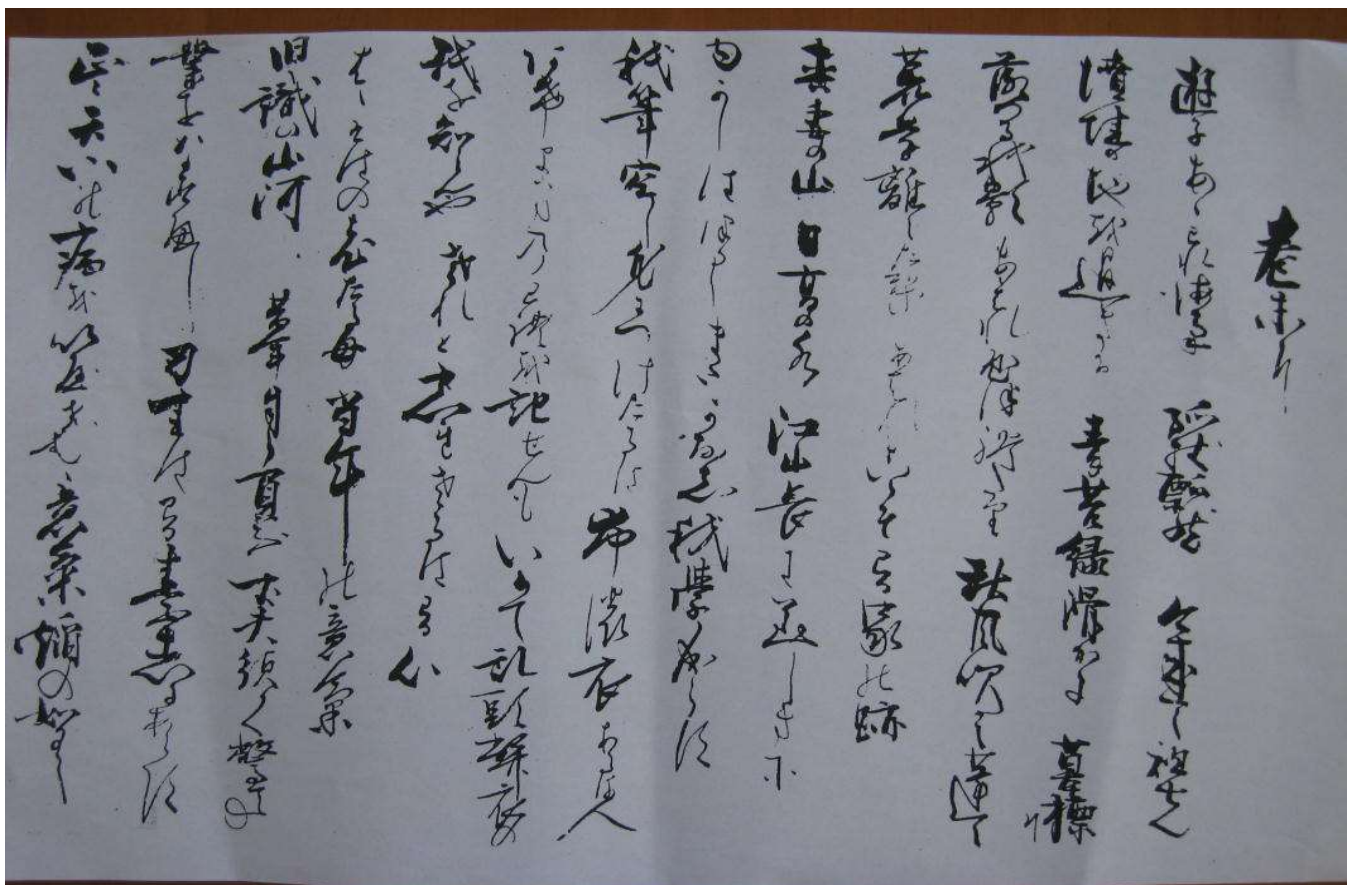
7. 日高浦沖合および塩屋村・鯉島方面(漁船と沖合の汽船の煙)



8. 塩屋浦および王子川河口と尾ノ崎



9. 詩(巻末に)



卷末に

遊子あゝ己れ海南和 孤杖飄然 今来し祖先
憤城(ママ)の地過きる 青苔緑滑かに墓標(耳)に
落つる我影あわれ包津禮多里 秋風吹て共連し
荒草離した梨 あ者れこ々そわか家の跡
真妻の山 日高の水 江山長に美しきに筭と
由かし は津可し 良多か奈志 我學成ら須す
我筆空し 身につけたるは布濃衣 あるは人
阿希まよひ乃われを記せんも い可で乱頭弊衣の
我を知らんや されと志れざるはわか心
者 そ波の老たる母 当年の意氣
旧識の山河 昔年自ら負ふ丈夫須く驚天の
業をか華遍し刃末は わか素志にあら須ず
正天下の病越い屋せむ意氣 焰ほのおの如有之

* ママ…「原文のまま」「もとのまま」の意を示す

山河依然 明治中頃までの作 全長約八トメ

嶋田海南画(京都市立美術工芸学校(現京都市立芸術大学) 明治三十三年卒 松原通平岩為次郎氏妻ふみさん実弟) 明治中頃親戚の葬儀に土生来迎寺下実家に帰省(医師宅)滞在中に描く

山河依然に描かれている風景は 土生来迎寺から見た正面の野口 日高川上流江川 和佐 真妻山方面 また反対側の日高川右岸の風景は 藤井村 吉田村 嶋 御坊 濱ノ瀬 松原から日之御崎 鯉嶋 尾ノ崎まで克明に描かれている。川には筏 渡し船 藤井 岩内・若野井堰とおぼしきもの 護岸の堤防はなく 西川川口には帆船 海には地曳き網 帆掛け船 外洋には汽船の煙も見える。道成寺や八幡山 藤井村 御坊村 日高別院 濱ノ瀬戎神社 松原 日御崎 鯉嶋 塩屋村 尾ノ崎の名も書かれ まさに約百二十三年前の日高川川口域のパノラマ画であると同時に 嶋田海南にとっては故郷ふるさとであり 巻末の詩の如くであつたのであろう。

尚『矢田村誌』には

嶋田要賢 藩政時代の末期から明治初年にかけて 今の大字土生 来迎寺近くで開業してた医師。世間の人は「要賢さん」が手を放したから駄目だとか「要賢さんが大丈夫と云うたから快くなる」とか云うた位で、名医の評判があつた。来迎寺の過去帳に要賢累代の嶋田の名があり、立賢 要賢 精賢と医家であつたことがわかる。子孫は村を出て今大阪市に在住するといふとある。嶋田海南は要賢の一族だろう。

今回『山河依然』を「日高郷土資料 ホームページ」に掲載するに当たり 資料提供に協力戴いた平岩昭氏 来迎寺様 『巻末』の解説指導下さつた小出潔氏 パノラマ写真を担当したマル友の「ボ様」に感謝します。

平成十九(二〇〇七)年九月十五日

清水 章 博

山河依然(明治中頃の日高川河口風景。全長約八トメ)

嶋田海南画 京都市立美術工芸学校(現京都市立芸術大学)明治三十三年卒業

御坊市松原通平岩為次郎氏妻ふみさん実弟(現平岩昭氏)

明治中頃親戚の葬儀に土生来迎寺下実家に帰省(医師宅)滞在中に描く

山河依然に描かれている風景は、土生来迎寺から見た正面の野口、日高川上流江川、和佐、真妻山方面、また反対側の日高川右岸の風景は若野、小瀬、藤井、和田、嶋、御坊、濱ノ瀬、松原から日之御崎、鯉嶋、尾ノ崎まで克明に描かれている。川には筏、渡し船(藤井、岩内)があり、また正面に護岸の堤防はなく、西川川口には帆船、海には地曳き網、帆掛け船、外洋には汽船の煙も見える。道成寺や八幡山、藤井村、御坊村、日高別院、濱ノ瀬戎神社、松原、日御崎、鯉嶋、塩屋村、尾ノ崎の地名も書かれ、まさに約百二十三年前の日高川川口域のパノラマ画であると同時に、嶋田海南にとっては故郷ふるさとであり、巻末の詩の如くであつたのであろう。

尚『矢田村誌』には

嶋田要賢 藩政時代の末期から明治初年にかけて、今の大字土生来迎寺近くで開業した医師。世間の人は「要賢さんが手を放したから駄目だ」とか、「要賢さんが大丈夫と云ったから快くなる」とか云った位で、名医の評判があった。

来迎寺の過去帳に要賢累代の嶋田の名があり、立賢・要賢・精賢と医家であったことが判る。子孫は村を出て今大阪市に在住するというとある。嶋田海南は要賢の一族だろう。

今回『山河依然』を「日高郷土資料」ホームページに掲載するにあたり、資料提供に協力戴いた平岩昭氏・来迎寺様・『巻末に』の解説指導下さった小出潔氏、パノラマ写真を担当したメル友のゴボ様に感謝します。

平成十九(二〇〇七)年九月十五日

清水 章 博

御坊市のホームページに

大正末期日高川川口の写真が掲載されている。是非対比いただきたい。

(http://www.city.gobo.wakayama.jp/0120ka/gobo_photo/old_3000.jpg)



御坊町全景